とっとり県美応援団 事務局だより

2021. 8. 30号

残暑お見舞い申し上げます

みなさま、お変わりありませんか。戦後 76 年目の今夏は連日「熱中症警戒アラート」が出され、猛暑に耐えながら毎日を過ごし、急拡大する新型コロナウイルスの感染予防にも努めて暮らさなければならない日々が続き、心穏やかに過ごすことが出来ませんでした。

ようやく秋の気配を感じられるこの頃です。本格的な「秋」の到来を前に、今後計画されているチーム活動に参加しようという気力や体力を蘇らせていきましょう。皆様と共に活動できるそのときを楽しみにしています。

・・・ 対話会の開催 ・・・

８月 29 日ＰＦＩ事業者（運営チーム）の方々との「対話会」（Web）が開かれ、運営チーム、県立博物館、美術館整備局の方々計 11 人と、応援団の７人が参加しました。

まず運営チームが「想定されているボランティア活動のイメージ」「県民参画の概要・スケジュール」等を説明。次に応援団から「チーム活動内容の紹介と美術館開館前後の活動イメージ」について、各チームリーダー（サブリーダー）が説明をしました。

開館後の活動が少しずつ具体的に提示され、話し合いが深まって来ましたが、活動実施のスケジュール感や連携のあり方などは、今後「対話会」を継続する中で明確にされてくるのだろうと思います。

今回の「対話会」の内容等は、チーム活動のなかでお伝えしたり、今後の研修内容に反映させたりしながら皆様と共有していこうと思っています。

広報チームからのお知らせ

ただ今、ホームページをリニューアル中です !! ご不便をおかけしております。今後、各チームの活動の様子や最新の情報をより詳しく見やすく提供できるよう努めて参ります。どうぞ楽しみにお待ちください。

「國之楯」：小早川秋聲（鳥取県日南町美術館蔵）

小早川秋聲：日野町出身（光徳寺長男として生まれる）

大正・昭和にかけて活躍した画家で、日本画の従軍画家として大陸に渡り、戦場の最前線に赴く。前線の兵士たちと行動を共にし、目にした兵士たちの日常の何気ない姿や光景を描き出だす。戦闘場面を描いた戦争画はほとんどない。

「國之楯」

陸軍の依頼を受けて描かれたものの、軍から受け取りを拒まれたといわれる異色の戦争画。
昭和18年タイ・ビルマの戦線に向かい、帰国後の翌年に完成したが、返却される。その後、小早川によって2度改作された。

日南町美術館といえば・・・

「佐武林蔵コレクション」近代美術史に名を連ねる芸術家の作品約100点を「佐武会」や遺族より寄贈。佐武林蔵氏は、現「KK サクラクレパス」の創始者であり、教育美術振興会の設立者。美術界の振興と発展に多大な功績を残す。日南町出身。

「足羽俊夫」氏 美術館開館当初からの名誉館長。パリを拠点に50余年、画家・詩人・写真家・彫刻家として精力的に芸術活動を続ける。日南町出身。

予告!!

「小早川秋聲（こばやかわしゅうせい）旅する画家の鎮魂歌（レクイエム）」展

会場：鳥取県立博物館
期日：2月11日～3月21日
（休館日：毎週月曜日、3/21除）

京都文化博物館→東京ステーションギャラリーと巡回したあと来年、鳥取で開催される展覧会です。代表作や資料を基に、故郷を思い続けた画家の全貌に迫ります。